



よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

蔵通信

二三号

2010.8

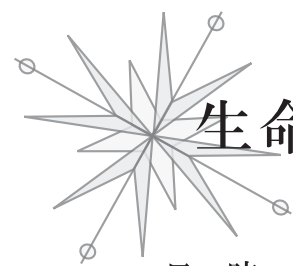
第二十二話
乱れそめにし

絵
金
百
話

シリーズ

発行：絵金蔵運営委員会
発行日：2010年8月1日
〒781-5310
高知県香南市赤岡町538
Tel/Fax 0887-57-7117
ekingura@mxi.netwave.or.jp
http://www.ekingura.com/

INFORMATION



生命（いのち）の記憶－田辺寿男追悼写真展－
たなべとしお

日時 平成22年11月6日（土）～12月19日（日）

9：00～17：00（入館は16：30まで）

休館 月曜日

会場 絵金蔵土間ホールほか 観覧料 一般500円 高校生300円 小・中学生150円
（赤岡の商店街にて展示予定）（15名以上の団体は各50円引き）

主催 絵金蔵運営委員会

3館合同企画

◇香美市立美術館 「生命（いのち）みつめて 大谷英之写真展」11/6～12/19

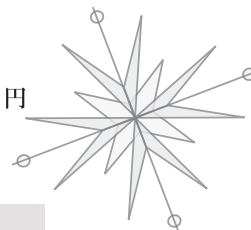
休館日：月曜 ・開館時間：午前9時～午後5時

◇タマリン館 「生命（いのち）永遠に 日和崎尊夫☆ドローイング展」11/6～11/23

（南国市） 「生命（いのち）に触れて 小田恵理子☆日本画展」11/27～12/19

休館日：月曜 ・開館時間：午前10時～午後5時

*期間中、3館にてスタンプラリーを開催します。



この秋、絵金蔵では土佐で活躍した民俗写真家・田辺寿男の写真展を開催致します。田辺氏は昭和39年頃より県内の民俗調査を精力的に行い、平成6年には『海辺 高知の民俗写真』などの業績で第15回平尾学術奨励賞受賞、平成11年4月には高知県立歴史民俗資料館にて「田辺寿男の民俗写真 ぼくの村は山をおりた」が開催され、多くの話題と共感を生んでいます。

残念ながら田辺氏は今年6月、90歳で逝去されましたが、残された約5万点に及ぶ写真資料のなかには香南市周辺の習俗を活写した写真が少なくありません。毎年お盆の時期、祭礼

に飾られる絵金の芝居絵屏風は、地域の信仰との関わりの中で生まれたものです。

今回、未発表資料も含めたこうした写真を絵金蔵はじめ、地域のなかで紹介することで、日々の暮らしや信仰と美術との関わりを見つめ直し、新しい語らいの場が生まれれば、と願っております。なお、本展は「生命（いのち）」をテーマとする香美市立美術館、南国市・タマリン館との合同企画展です。3館の展示を通じ生命の大切さを考える機会となれば幸いです。



定期購読できます！

蔵通信は定期購読可能です。ご希望の方は絵金蔵までお申し込み下さいませ。

◇年4回発行

◇1年分ごとに更新していただきます。

◇要送料320円（お申込みの際、振込先をお知らせします。）

Tel/fax 0887-57-7117

Email ekingura@mxi.netwave.or.jp

【絵金蔵】

開館時間

午前9時～午後5時

（入館は午後4時半まで）

観覧料

大人500円、高校生300円

小・中学生150円

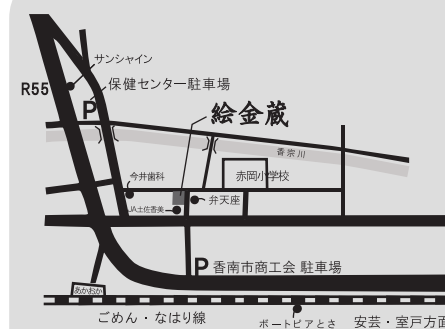
（15名以上の団体は各50円引き）

休館日

毎週月曜日

（月曜が祝日の場合は火曜）

12月29日～1月3日



幕末土佐の芝居絵師・金蔵

（通称・絵金）。彼は土佐

各地の祭礼に多くの芝居絵

屏風を残しました。絵金蔵

は、平成17年2月、赤岡の

地に残る23点の芝居絵屏風

を収蔵・保存するために作

られた施設です。

絵金蔵の三つの使命

：縁結び
：地域を超えて
：世代を超えて

：伝承
：次の世代へ
：伝えるため

：年一度
：絵金の文化を
：守るため



ようこそ、Deepな赤岡へ。赤岡っ子に愛されるおいしいモノの物語。

ドッパリっかって
分かったニャア...
by マリモ

新しいおうちカフェ、誕生。

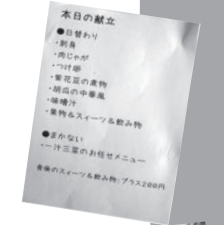
今年7月、赤岡の町に新しいカフェが誕生しました。場所は絵金蔵から徒歩3分、国道55号線から少し北に入った住宅地のなか。「看板はあるけど、入っていいのかしら…」と思うくらい、民家そのままの雰囲気ただよっています。昭和37、8年頃に建てられたこの家は生け垣と小さな庭に囲まれた木造住宅で、室内は天井が高く、明るい日差しがそそぐ気持ちのよい空間です。

オーナーの安藤恭子さんは、赤岡の町と人、そしてこの家のもつ昭和の匂いに魅せられ、食事どころの少ない赤岡で、外のお客さんと地域の方々、両方に愛されるカフェができたらと、主婦業やお勤めの合間にこつこつと準備してきました。ご近所から届いた小物やインテリアも多く、それぞれの物語が「‘ぜよ’の小物あれこれ話」に記されています。おすすめは日替わりランチ（デザート、コーヒー付き）。素材のほとんどは赤岡で仕入れ、とれたての魚や野菜を体にやさしい家庭の味で出してくれます。自家製食べる野菜ジュースは食欲のない方や、野菜不足の方におすすめ。

焼き菓子やケーキなどのスイーツ、飲み物とのセットもあります。
仲の良いおともだちとおしゃべりするもよし、棚に並んだ
アート関連の本や図録をじっくり読むもよし、小さな
心温まる空間で、どうか思い思いにおくつろぎください。



"ぜよ"の小物あれこれ話

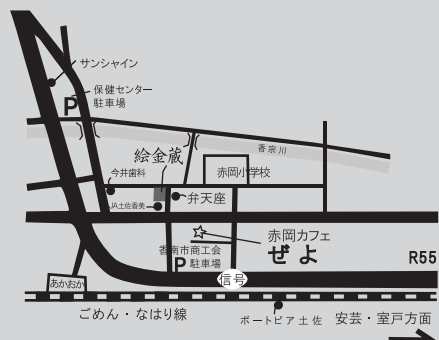


「ぜよ」の外観。赤い門扉と丸いお鍋のような看板が目印。



Vol.
3

赤岡
カフェ
ぜよ
新しくて懐かしい



赤岡カフェ ぜよ
高知県香南市赤岡町 714-7
TEL0887-54-5585 P 有
営業日・時間 / 土・日・月 AM11:00 ~ PM5:00
ブログ <http://blog.goo.ne.jp/zeyokochi>

絵金百話

第二十二話 乱れそめにし

かすかの さとこよしすみか

競伊勢物語 春日野の里小芳住家

< 概要 >

『競伊勢物語』は安永4年（1775）4月、奈河亀輔作の歌舞伎狂言として大坂・嵐松治郎座（中の芝居）にて初演されました。同時に読本浄瑠璃『競伊勢物語』として刊行され、大坂・豊竹定吉座にて、人形浄瑠璃として上演されました。通称「伊勢物語」とも、また「競」は「はなくらべ」「だてくらべ」とも呼ばれます。『伊勢物語』の在原業平の伝説をもとに、近松門左衛門の『惟喬（高）惟仁位諍』『井筒業平河内通』などを参考にしながら、複雑な構成がなされています。そのうち、今回ご紹介する6幕目「春日の里小芳住家」は歌舞伎において現代も上演され、人形浄瑠璃でも3段目「小よし内」が通称「はったい茶」*1として残っています。

物語の舞台は平安時代、文徳天皇の子惟喬・惟仁両親王の跡目争いを中心に展開します。この争いの最中、惟喬方の者が神鏡を盗んで玉水の淵に隠しました。奈良・春日野に住む小芳と娘の信夫、婿の豆四郎は惟仁方で、信夫は警護の目を盗んで淵から鏡を取り出します。そこへ惟高の命を受け、表向きは臣従している紀有常が、相愛の仲である惟仁方の在原業平と井筒姫を捕えに来ます。信夫は実は有常の娘、有常の息女として養育した井筒姫は、実際は帝の娘でした。有常の意を受けた信夫と業平にそっくりの容貌を持つ豆四郎は二人の身代わりとして喜んで命を絶ち、業平と井筒姫は首尾よく惟仁親王を帝の跡目に立てることができたのでした。

紀有常（815～877）は平安時代に実在した貴族で、娘は在原業平の妻となりました。『伊勢物語』には藤原氏を外戚に持つ弟惟仁親王が皇太子になり、失意のなかにあった惟喬親王（有常の甥）を業平らと共に囲み、風雅の交わりのあったことが記されています。

さて、絵金はこの作品でも得意の異時同図法*2を用い、物語を忠実にたどらせながら緊張の最も高まる劇的な瞬間を切り取っています。左下には腹に刃を立てる豆四郎、はっと駆け寄る信夫を有常が苦渋の表情で止め、その後ろには何も気づかず、一心に砧*3を打つ信夫の母小芳がいます。父、娘、夫、それぞれの命懸けの想いがほとばしるような描写をどうぞご堪能ください。

*1 はったい茶は大麦を煎って挽いた粉、はったい粉を溶いたものであるが、ここでは焼き米を用いている。
*2 異なる場面を一枚の絵のなかに描く手法。
*3 衣の生地を打ってやわらかくしたり、つやをだしたりするための道具。木槌などを使う。

芝居絵屏風
出品します！

絵金をきつかけにした展覧会 ―板橋区立美術館「諸国崎人伝」展―

板橋区立美術館学芸員 佐々木英理子

東京の板橋区にある小さな美術館、板橋区立美術館では、九月四日から「諸国崎人伝」という展覧会を開催します。江戸時代後半になると、京都や江戸だけでなく、地方でも活躍する絵師が出てきますが、彼らの絵は自由奔放で、個性を追求したような奇抜な絵であることが少なくありません。そんな絵師を全国から十人選び、対決させてみよう、というのがこの展覧会の趣旨です。絵金の作品も、もちろん含まれます。芝居絵屏風四点を、絵金蔵と赤岡町の皆さんのご協力で出品いただくことになっています。

実は、今回の展覧会は、「絵金を板橋で展示したい」という強い思いから企画されています。なぜなら、私は絵金が好きで、もともとこの魅力を多くの人に知ってもらいたいと考えているからです。当館の安村館長に相談すると「それなら絵金に対抗できる作品を全国から集めてみようじゃないか。」ということになりました。今回の展覧会の出品作品の選択は「絵金に対抗できるか否か」が基準の一つとなりました。「良い絵だけれど、絵金に対抗できない。」という理由で出品を諦めた作品が何点もあるのです。

私が絵金に出会ったのは、二〇〇三年に安村館長が企画し、当館で開催された「妖と艶」という展覧会です。芝居絵屏風が三点展示されるので、その解説を担当することになり、絵金を勉強し始めたのですが、とても驚きました。驚いた点は三つあります。まず一つは、作品そのものに対する感動。私は歌舞伎が大好きなので、芝居絵屏風を見ると、そのお芝居の舞台が目に浮かんできます。今回「出品いただく」「伽羅先代萩」は特に好きな演目で、屏風を

見ていても、衝突の陰から飛び出そうとする千松を「そのお菓子を食べたら死んでしまうよ！」と押しとどめたい衝動にかられます。鶴喜代の後ろに描かれた雀の鳥かごを見ると、雀の歌を歌いながら泣いていた千松が目に見え、左端にいる仁木弾正を見ると、大ネズミに化けた弾正が、花道のすっぽんからドロドロと出てくる姿を思い出します。お芝居をよく知っていなければ、このような細部は描けないと思いますし、それまでの日本美術にはあまりない、生の感情の爆発が描かれていると思うのです。

次に感動したのは、これらの屏風が神社のお祭りのために描かれ、その風習が現在も続けられているという点です。血みどろの作品もあるのに、何故お祭りで見えるだろう、と不思議に思いますが、屏風に描かれた、のびきならない物語の中で懸命に生きる登場人物たちの姿を見ていると、何故か私も頑張ろうと思えてくるのです。昨年、ようやく念願かなって香南市赤岡町・須留田八幡宮の宵宮祭りに訪れることができました。そこで感動した点の三つ目は、絵金の作品を守り、伝えていこうと頑張っている絵金蔵の方々、それを支えるボランティアの皆さんの熱意です。赤岡の皆さんに今も愛される絵金という絵師は、本当に幸せだと思います。

絵金愛の故か、長くなつてしまいました。絵金に対抗しうる作品ばかりが並ぶ展覧会にわくわくしています。絵金と並ぶどんな絵師がいたのか、土佐の皆さまにも見ていただけたら幸いです。

絵師の10人
驚愕の不協和音。

諸国崎人伝

Shokoku Kijin Den・しこくきじん でん

9.4(土)→10.1(月・祝)

- 観覧料 一般600円、高校・大学生400円、小・中学生150円
- 休館日 月曜日(ただし9.20、10.11は開館) 9.21は休館 ●開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

※土曜日は小・中学生は観覧無料です。20名以上団体割引、65歳以上高齢者割引、障がい者割引あり。※9月27日に一部展示替えがあります。

板橋区立美術館

LEBASHI ART MUSEUM <http://www.atabashi-artmuseum.jp>
東京都板橋区赤松 5-34-15 tel.03-3979-3251 FAX03-3979-3251

出展画家
関井梅江 平清信
江藤蓬信 白井特中
十竹斎 蕭芳金
佐野白隠 曾園
狩野白隠 中村絵金
加賀白隠 中村絵金

伊勢物語と 競伊勢物語

いせものがたりと
はでくらべいせものがたり

みちのくの
しのぶもぢずり
誰ゆゑに
乱れそめにし
われならなくに

河原左大臣源融
『百人一首』

平安時代の歌物語として知られる『伊勢物語』。「むかし、男、初冠して」にはじまる冒頭の段は、奈良・春日の里で狩りに出た男が美しい姉妹を見てすっかり夢中になり、着ていたしのぶ摺りの狩衣の裾を切り取って歌を書いて送ったという逸話を紹介しています。奈良時代から絹織物の産地であった現在の福島県福島市では自然の石を利用した絞り染めの絹がしのぶずり(しのぶもちずり)として宮中に献上され好評を博しました。その乱れ染めと言われる模様から「乱れ心」を意味する枕詞が生まれ、数々の和歌に詠まれています。

春日野の
若紫のすり衣
しのぶの乱れ
限り知られず

在原業平
『新古今和歌集』

そのしのぶずりの由来、『競伊勢物語』では『伊勢物語』を踏まえ、こんな風に巧みに組み込まれています。小芳サアサアあの信夫摺の事は、思ひ付で侍へた事ではござらぬ。…親仁殿が死しやつてから、形身じやと思ふて、石を撫でては泣き摩りては泣き、毎日毎日石に取りいて泣くうちに、着て居る物が石に摩れて、天然と模様染に染まつたわいなう。それで聞こえたわいな、今は此模様が一面に流行出したは、日本国へ聞こえた色事師の開山業平といふ人が、しのぶずりの狩衣とやらを着やしやつてから、しのぶずりを着いさへすりや好い男に見えるかと思ふて、今はお公家様が皆信夫摺の衣を着やしやるげなて。



本町四区、影山薬局内。小雨のため室内に飾られた屏風絵が独特の濃密な空気を醸し出しています。



本町二区、入交時計店前



赤岡町・西川家所蔵の幟。絵金筆の幟「養老滝図」を中心に、絵金の弟子としても知られる宮田洞雪(みやたとうせつ)の幟「龍図」「虎図」(左)と「桃園結義図」(右端)。



幟を見上げるお客さま。

平成二十二年
ビックアップ 宵宮・絵金祭

今年も七月十四・十五日の須留田八幡宮宵宮祭りと、七月第三土日の十七日・十八日、絵金祭りが行われました。今年も三連休というところもあり、町は大変な賑わいでした。絵金蔵では、例年絵金祭りにあわせ、特別展示を行っています。今回は昨年の絵本に引き続き、今年も初出展となる地元赤岡町・西川屋所蔵の幟四点を展示いただきました。二階まで吹き抜けの「関と絵金」展示室を使い、ボランティアの方々にも手伝って頂きながら、四ノハメートルの大作をやつと展示しました。巧みな構図、大胆な筆さばぎを間近に見て圧倒された、感動した、というお声をたくさんいただきました。スタッフ一同、ほんと胸をなでおろした一週間でした。



はでくらべいせものがたり 競伊勢物語 春日野の里小芳住家

二曲一隻屏風/紙本著色/153.2×170.5cm
赤岡町横町二区所蔵

— あらすじ —

春日の里の老婆小芳は娘信夫とともに着物を信夫摺で染める商いをしている。そこに家臣を引き連れ、武家の姿をした紀有常が訪れる。有常はかつて兄に勘当を受け陸奥国で浪人していた頃、小芳の家の隣に住み、親しく行き来した間柄であった。この日は小芳の夫・六太夫の命日にあたり、小芳は、はったい茶でもてなす。

そこへ京へ商いに行っていた信夫が足を引きずりながら戻る。妻の浮気を疑う夫に、信夫は立ち入りを禁ぜられていた玉水の淵で手に入れた神鏡を渡す。疑い晴れ、主人への忠義が立ったと豆四郎が喜ぶところに一部始終を聞いた悪党鏡八が現れ、二人をゆする。豆四郎はいったん鏡八を物置で待たせたところで、鏡八を殺し、母に詮議がかからぬよう勘当を受けたいうえで、この家に隠れる在平・井筒姫とともに立ち退こうと信夫に告げる。

信夫は小芳にわざとつらく当たるが急な変わりようを案ずるばかりで全く怒らぬ母親の有難さについて泣いてしまう。そこに有常が現れ、自分が信夫の実の父親であり、小芳とは親子の縁を切れと言う。驚く信夫、逆上する小芳に有常は仔細を話し、信夫は身代わりを決意する。支度を調えたところで、有常はもはや業平・井筒姫の居所が知れた以上、身代わりとなる二人には死んでもらうよりほかないと言い、覚悟を決めた豆四郎、続いて母に別れの琴を聴かせる信夫の首を落とす。

■ 引張る袂振切る袖

玉水の禁断の淵のなかに宝がある、と聞いた鏡八がこっそり淵に潜り神鏡をつかんだところへ信夫が現れ、鏡をひったくって逃げる場面。信夫は夫のため、道に迷ったふりをして淵に行き、雨のなか命がけて鏡を手に入れます。

■ 出づる姿も死装束

切腹する豆四郎。在原業平の身代わりとなって死ぬことは、兼ねてより覚悟の上でした。豆四郎の父は、業平の父の家臣。主人に忠を尽くし、勘気を解けという父の遺言を守り、まさかの折は夫婦そろって身代わりになろうと思いつめていたのです。

■ 娘命をくれい！！

涙をこらえながら、有常は娘の黒髪を解き、十二単を着せます。「お姫様によう似たかへ。」と問う娘に「サア其似たが其身の因果と思ひ諦めて、娘命をくれい！」この後、琴唄が終わるのをきっかけに有常は豆四郎、信夫の首を打ち落とします。

物語る小道具 ～ 衝立 ～
菊の花が描かれた衝立には絵金の落款「友竹」が施されています。悲しさをいっそう際立たせる装置として、母と娘を隔てる小さな衝立はこの場面にはなくてはならない小道具です。



■ 些つと売りたい物が有つて来た。

神鏡を手に入れ、喜び信夫・豆四郎の様子をうかがう鏡八。この後玉水の淵でちぎり取った信夫の片袖を取り出し、代官所に売りに行く、と二人を脅します。

■ かう隔てた衝立が生死の境。

娘の琴に合わせて一心に砧を打つ小芳。今生の別れになるとは知らず愛しい娘・信夫が伊勢の斎宮という高い身分となって都に行くことを喜んでいます。この直後変わり果てた二人に対面し「信夫ヤアイ婿殿イノウ、私も連れて往て下されい」と泣き崩れます。

■ 成程お身代りになりませう。

父より、業平・井筒姫がこの家に忍んでいることが露見し、取り囲まれていることを知らされた信夫。覚悟は決めましたが、死ぬ前に一目夫の顔が見たいといひます。そこに現れた夫はすでに死装束でした。「三途の川も手に手を執つて渡して下さんせへ。」二人は次の世も変わらず夫婦であることを誓い合うのでした。

物語る小道具 ～ 琴 ～
「目出たい門出なれば、其方の常々の琴の一手聞かしてたらぬか、それに合わせて此母も幸いな此ぎぬた…」という母の言葉を受け、母が打つ砧に合わせて信夫が弾く琴。

豆四郎は諸肌脱ぎ、氷の刃左りの脇つば、ハット信夫は氣も散乱、隔つる有常立身で覆へば…*1。

〔参考文献〕
*1『脚本傑作集』上巻 博文館 1899年9月
*2『歌舞伎登場人物事典』白水社 2006年5月
*3『絵金展 土佐の芝居絵と絵師金蔵』高知県立美術館 1996年
*4『絵金蔵収蔵品目録』改訂版 香南市 2010年3月
*5近森敏夫『絵金読本』改訂版 香南市商工水産課 2006年3月

